



(共同リリース)

2019 年 9 月 20 日
日本航空株式会社
成田国際空港株式会社

成田空港で自動運転の実証実験を 10 月 31 日より開始

～トローイングトラクターでコンテナを自動搬送します～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:赤坂 祐二、以下「JAL」)は、成田国際空港株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:田村 明比古、以下「NAA」)が運営する成田国際空港の制限区域内において、航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引するトローイングトラクターによる自動運転の実証実験を実施します。

今回の実験は、国土交通省が公募する「空港制限区域内の自動走行に係る実証実験」に JAL が応募し実施するものです。近年、訪日旅客 4,000 万人時代に向けてますます航空需要の拡大が見込まれる一方、生産年齢人口の減少による労働力不足が懸念されています。こうした状況に対し、JAL と NAA は先端技術の活用を積極的に推進し、生産性の向上を目指します。

その一環として、このたび JAL では、国際線拠点空港のひとつである成田国際空港内で、安全性を担保しつつ、多くの航空機や車両、ならびに地上作業員が混在する厳しい条件下において実証実験を行います。これにより、多様な環境での走行技術の検証や、将来の実用化に向けた課題の抽出に取り組んでまいります。

【実証実験概要】

- 期間 : 2019 年 10 月 31 日～2020 年 3 月 31 日
- 場所 : 成田国際空港第 2 ターミナル本館、サテライト周辺の
車両通行道路および駐機場
- 実験車両 : 「TractEasy」(TLD 社)
- 遠隔運行管理システム : 「Dispatcher」(SBドライブ社)



「TractEasy」 側面



「TractEasy」 正面

以上